



# 布施だより

## 謹賀新年

### 《2015 年から 2016 年へ～終業式・始業式～》

2015 年から 2016 年の年が明けました。今年もよろしくお願いたします。  
年末から年始にかけての様子をお伝えします。

#### 〈 終業式 〉

12 月 25 日 (金) の 2 学期終業式では、生徒代表の 3 人の皆さんから  
2 学期を振り返っての発表がありました。 (文章は抜粋です。)

「2 学期で頑張ったことがふたつあります。ひとつめは部活動です。僕は  
バスケットボール部に所属しています。1 学期にはあまりゴールにボールが  
入らなかったのが、暑い中できつい体力作りや基礎練習を行ったお陰で、シ  
ュートも決まるようになってきました。ふたつめは生活についてです。2 学  
期の初めは、2 分前着席を意識していませんでした。11 月になり、20 日  
間チャレンジが始まり心がけられるようになり、その結果 3 組では達成率  
100%になりました。それはクラスみんなで心がけ、呼びかけあうことで  
できたことです。3 学期は時間を守ることを心がけて、一生懸命頑張ってい  
きたいです。4 月に新入生が入学してきたとき、先輩としてしっかりした行動  
のできる自分を創り上げたいと思います。

(1 年 3 組 塚田晃司さん) ~ ~ ~ ~ ~

「私がこの 1 年で学んだことは『すぐに諦めてはいけない』ということ  
です。私は理科が苦手で、テストでも納得できない結果でした。「苦手教科  
だからしょうがないか・・・」と考えていましたが、苦手だからこそ頑張ら  
なければいけないことに気づきました。それから、できるだけ毎日分らない  
ところを重点的に勉強し続けた結果、今までの点数を大きく伸ばすことが  
できました。「頑張ればできる」と諦めなかったからです。自分に自信を持  
ってチャレンジすることが大事だと改めて実感しました。3 学期からは、第  
51 代生徒会が始まります。たくさんのことにチャレンジし、第 51 代の役員  
を支えながら協力して生徒会を創っていききたいです。

(2 年 3 組 鈴木はるかさん) ~ ~ ~ ~ ~

「3 学期は、中学校 3 年間の総まとめになり、受験を控え、ひとりひと  
りが気持ちの面でも不安定になりがちな時期を迎えます。自分を振り返  
ったとき、苦しいこと苦手なことから逃げてしまうこと、一つのことを続け  
る根気のなさ、当たり前前が当たり前前できずに楽な方を選ぼうとする  
、そんな自分を卒業までに変えていきたくと思っています。みんなが仲  
間として、より絆を深め、励まし合って受験を乗り越えていけるように、



ルーム長として最後まで務めていきたいです。登校日数が少ないので、一日一日を大切に過ごすと共に、進路実現に向けて頑張っていきたいと思います。

(3年2組 丸野芽衣さん) ~ ~ ~ ~ ~

続く校長講話では11月7日の50周年記念式典での比田井和孝先生のお話が引用されました。

記念講演をしてくださった比田井先生の「この世の中の最高の幸せは、たくさんの人から必要とされることです。」という言葉を感じていると思います。先生の話されたことのすべては「人から必要とされる人間になるためには、どうすればよいのか」というお話だったと私は思っています。「人から必要とされる」ということは、「人に喜びを与えること」だと私は解釈しています。

お話の中に、ディズニーランドのスタッフの感動的なお話が2つありました。ひとつは、ディズニーランドのスタッフが、若い夫婦からお子様ランチの注文を受けた時の話でした。

お子様ランチの注文をいったんはお断りをしたスタッフでしたが、ご夫婦が病気で亡くなった子どもと3人で食事をとろうとした約束をかなえるためにディズニーランドを訪れたことを知ると、そのスタッフは本当に素晴らしい対応をしました。

まず夫婦を二人掛けのカップル席から、ファミリー席に案内します。さらに子供用のイスを用意して、お子様ランチを2つではなく、3つ持ってきてくれました。そして、3つめのお子様ランチを子供用のイスの前に置くと、スタッフはこう言います。

「こちらはディズニーランドからのサービスです。ご家族でごゆっくりお楽しみください。」

もうひとつのお話は、ディズニーランドのキャラクターのサインを集めた子どもの大切なサイン帳をなくしてしまったお父さんとお母さんお話でした。このことで相談を受けたスタッフは、ここまでするのかというくらいの心のこもった対応をします。

「お子様ランチは9歳までという決まりがあるので、お出しできません。」とか「サイン帳は、いろいろあたってみましたがどうしても見つかりませんでした。」と応対することが普通だと思います。もし、そうしたとしても誰からも非難されることはないと思います。

それでも、二人のスタッフはそうしませんでした。いったいなぜ、これほど人に喜びを与える対応ができたのでしょうか。先生はこうおっしゃっていました。

「それは、いつも、どんな時でも、どんな事でも、誰に対しても精一杯の仕事をしていたからです。だから、こんな大事な時に、こんないい仕事のできたのだと思います。」

私は、スタッフの方に「どうしてあれほどの心遣いのある対応ができたのですか？」と尋ねたら、どう答えるだろうかと考えてみました。皆さんはどう答えると思いますか？きっとスタッフの方はこう答えると思います。「いつもどおりのことをしただけです。」

私は、このお話は、本校で大切にしている「凡事徹底」ととてもつながっていると思っています。チャイムスタートや掃除、給食、あいさつ、授業の受け方、こうした凡事を徹底すること、さらに生徒会の仕事や係の仕事に、心を込め誠実に行っていくこと、こうしたことは、比田井先生の言う自分の「あり方」をつくっていくことだと思います。「あり方」とは目の前の物事に対して、いつもどんな心構えで、どんな思いでやっているかということです。

生徒総会でお話した、役員の方々が、目立たない見えないところでも、心を込め誠実に仕事をしてきたことは、正に、どんなときでも精一杯を尽くす自分の「あり方」を、ゆるぎない確かなものにしていくことです。

皆さんのこの「あり方」を、これからもっともっと確かなものにしてほしいと思います。目の前の当たり前なのに心を込め誠実に行っていく凡事徹底はそのためのものです。

## < 始業式 >

明けて1月7日(木)の始業式では、3人の生徒代表の皆さんから3学期への決意発表が次のようにありました。(文章は抜粋です。)

「・・・部活動は、今月には1年生大会があります。今までは基本練習が中心でしたが、大会に向けた試合形式の練習をやらせてもらえるようになりました。まだまだ先輩達のようにプレーできませんが、日々の練習の成果が残せるように頑張りたいです。そのためにも、時間を大切にして練習メニューに取り組んでいきたいです。あと3ヶ月で私たちにも後輩ができます。後輩から尊敬されるような先輩になりたいです。行動で示せるように、



やるべきことをしっかりやっていきたいです。これからも、やらなくてはいけないことが増えてくると思いますが、限られた時間の中で、優先順位を決めて、今自分がやるべきことにきちんと取り組んでいきたいです。

(1年4組 木内ひより さん) ~ ~ ~ ~ ~

「・・・3学期に頑張りたいことのひとつめは勉強です。私は理科と数学が特に苦手なので、この2教科を中心に頑張りたいです。今までの勉強のやり方だと、ただやるだけで分からないところを後回しにしてしまっていたので、普段から予習復習を行い、理解できるまで頑張りたいです。普段の授業でも積極的に発言したいです。3学期は1年で一番登校日数が少なく、3学期が終わればもう3年生です。勉強、部活動、共に両立できるよう一日一日を大切に過ごしていきたいです。」

(2年4組 近藤歩乃香 さん) ~ ~ ~ ~ ~



「卒業に向けて、一日一日を大切に過ごしていきたいです。もう大きな行事はなく、普通の毎日が続いていきますが、だからこそ気持ちを落ち着けて残りわずかとなった西中での生活を味わってきたいです。そのためには今まで取り組んできた凡事徹底を大切にしていきたいです。生徒会を第51代にバトンタッチした私たち3年生だからこそ、第51代のスタートがスムーズにいくよう協力して、凡事徹底を心がけていきたいです。またクラスや学年の仲間ともあと49日でお別れとなります。今以上に関わりを深くして、みんなで仲良く最後の学期を過ごしたいと思います。わずか49日間しかありませんが、充実した日々を送り、胸を張って、この西中を卒業していきたいと思います。3学期もよろしくお祈りします。」



(3年3組 西村友里 さん) ~ ~ ~ ~ ~

校長講話では「別れを惜しむ」と題したお話がありました。校長先生からの、「別れをかけがえないものにしてほしい。そして新しい出逢いに向かっていってほしい。」という皆さんひとりひとりへのエールです。お読みください。

3学期は49日間の短い学期です。別れの学期でもあります。この別れに関わることで、2学期、ステンドグラスを片づける時に、銀祭実行委員の3年生がどんなふうステンドグラスを片づけていたかを聞いて私はとても感動しました。ステンドグラスは、毎年片付けをしたら、可燃ゴミとして処分をしています。全校で製作した思いの込められた素晴らしい作品ですが、そうせざるを得ません。このことは銀河祭実行委員の皆さんもよく分かっていることです。可燃ゴミとして処分されることが分かっているものを、普段、私たちはどんなふう片づけるでしょうか。破いて丸めてゴミ箱へ、これがよくあることだと思います。

ですが、銀河祭実行委員の皆さんの片づけ方はこうではなかったそうです。粘着力の強い両面テープで貼られたステンドグラスを、破れないように丁寧に、1ヶ所ずつはがしていったそうです。それでも、どうしても破れてしまうパーツがあります。その破れたパーツをどのようにしたか。一枚一枚丁寧にたたんでゴミ袋の中に入れていったそうです。

物事の終わり、別れの時はこうありたいと思います。ステンドグラスとの別れの時に、捨てること分かっても破ることができなかった思い、破れたパーツをたたまずにはおられなかった思い、これが本当に尊いことだと思います。銀河祭実行委員の皆さんがステンドグラスにどんな思いを持って、そして、どんなふうステンドグラスに関わってきたのか、そのことがこの別れの姿に現れています。「別れを惜しむ」ということはこういうことだと思います。

3学期の終わりには、多くの人やもの、こととの別れがあります。その別れの時に、こうした姿にあふれる3学期でありたいと思います。そのために、今、目の前にあることや、当たり前のように近くにいる仲間、先輩や後輩、先生たちとの関わりを大切に、1日1日を過ごして行ってほしいと思います。

・・・篠ノ井西中学校の3学期49日間がスタートしました。

## 《 春待つ 息吹き 》

- 〈 吹奏楽部 〉 中部日本重奏コンテスト 予選大会  
優秀賞 クラリネット 5 重奏
- 〈 ポスター 〉 長野県防犯ポスターコンクール  
銀賞 林あおい さん



林さんの作品です

## 《 シンポジウムのお知らせ 》

主催：県青少年インターネット適正利用推進協議会（県民文化部次世代サポート課 235—7210）

期日：平成 28 年 2 月 11 日（木 祝日） 14：00～16：30

場所：若里市民文化ホール

内容：『講演：スマートフォン・SNS 等と適切につきあえる力を育てる』

桑崎剛 教育 ICT 情報モラルスペシャリスト

『パネルディスカッション：青少年のインターネット利用について～大人と子ども、それぞれの立場で身に付けていかなければならないことは何だろう？』

参加・明科高校生徒会役員

～ ～ ～ ～ ～

生徒諸君が学び続けるのと同じように、私たちも日々向上するための研修の機会をもっています。昨年の夏の校内研修会では藤森裕治先生（信州大学教育学部）にお話しいただきました。先生の著書『すぐれた論理は美しい』に次の文章がありました。ご紹介します。

高校教師として過ごした 15 年間は、それぞれ予測不可能な出来事との格闘でした。金がなくて学校に通えないと訴える佳奈、明けても暮れても競馬にしか興味を示さない哲也、級友の些細な一言で過剰反応を起こす咲恵、高校受験に失敗した劣等感に苛まれている敬太郎、警察官の父に暴力事件で補導される博明、…思えば幸福と安定に満ちた生活環境の生徒は少なかったように思います。そして忘れた頃になって、哲也が報知新聞のコラムニストになったという便りや、敬太郎が歴史学者として大学教員になったという噂を耳にしては、教育という営みが私たちに要求する「根気」の厳しさに狼狽したものでした。と同時に、彼らと生身で関わり合った日々が、決して消えることのない明かりのように、記憶の中で赤々と光を放ち続けるのです。予測不可能な出来事という薪を燃料にして。

予測不可能な出来事は、決して良いことばかりではありません。いやむしろ、辛いことや哀しいことのほうが多くあります。しかし、それらに正対しないと、本当の幸福は訪れない。なぜか。人は辛いことや哀しいことを経験したときこそ、他の人々のあたたかな志を知り、自己を謙虚に省察することができるからではないでしょうか。こういう感覚をどこかしら知覚している論理に触れたとき、私はそこに、卒業式で泣きながら退場する生徒達を送り出す瞬間のような「美しさ」を覚えるのです。



子どもたちの周囲にいる親、教師、大人が、子どもたちの要求してくる「根気」に戸惑いながらも、ひとりひとりの若者の成長の可能性に、そしてそれぞれの卒業と進級にピッタリ寄り添って行ってやる・・・そんな日々が始まります。